

広告 企画・制作/読売新聞社広告局

コロナ禍 救急医療一丸で対応



大阪府救急医療機関連絡協議会 会長 木野 稔氏

「救急の日」は、コロナ禍によって私たちの生活が大きく変わった。半、ウイルスは変異を繰り返して、この国に伝播した患者が最も多くなりました。医療機関の発熱外来は患者が殺到して混雑し、救急搬送体制に深刻な影響が出ました。先行き不透明なコロナ禍において、救急医療現場で患者の力を尽くしている専門医、長年勤務する大阪府野田、副院長の村瀬俊生先生、救急医療現場の現状や私たちが取るべき行動についてお話を伺いました。

救急医療の現状 村瀬医師に聞く

「この事態を乗り切れるために、当院では放射線科のスタッフや事務スタッフと協力し、患者の対応を徹底して対応しています。例として、当院ではコロナ患者の病棟を一般の入院患者の病棟とは完全に分けています。一般患者を感染から守るために、コロナ患者が搬送されてきた場合、絶対に院内の通路で接触しないように完全に遮断し、その交通整理、患者の搬送、検査、タスクを担っていただいています。しかしながら、スタッフの働き方でも対応しきれない部分があります。一般患者の入院や手術を断る必要が出てくるのが現状です。これは深刻な課題で、今後の対応が求められています。」

基本の対策徹底して

「コロナ禍の熱中症対策と今後の課題」 9月に入り、暑い日が続く中、コロナ患者の対応と熱中症対策を両立させることが、今後の課題です。当院では、熱中症対策として、患者の搬送時に水分補給を徹底し、エアコンの使用も徹底しています。また、患者の搬送時にマスクの着用も徹底しています。熱中症対策とコロナ対策を両立させることが、今後の課題です。

「119番」迷ったら「#7119」へ

突然の病状やけがで救急車を呼ぶべきかどうか迷った場合は「#7119」(携帯電話・固定電話のプッシュ回線)または「06-6582-7119」(固定電話のダイヤル回線、I-P電話)に電話相談を。市内すべての市町村からの救急医療相談・救急搬送の案内に対応。医師の支援体制のもとで看護士・相談員が24時間、365日無料相談(通話料は利用者負担)に応じます。

緊急事態 体制を整えています 9月9日は「救急の日」

Table listing various hospitals and their emergency services. Columns include hospital name, address, phone number, and website. Hospitals listed include 多根総合病院, 大阪旭こども病院, 行岡病院, 淀川キリスト教病院, 愛仁会高槻病院, 愛仁会千船病院, 山本第三病院, 寺元記念病院, 加納総合病院, 大野記念病院, 東住吉森本病院, 南大阪病院, 阪和記念病院, 大阪回生病院, 清恵会病院, 馬場記念病院, さくら会病院, 河崎病院, 萱島生野病院, 長吉総合病院.